

- 岸田文雄衆議院議員、古賀篤衆議院議員、塩崎彰久衆議院議員と意見交換
- 武見敬三前参議院議員の慰労会を開催
- 「小田原きよしを囲む公認会計士の会」第2回通常総会を開催
- 「鷲尾英一郎 育てる会」に参加
- 公明党政策要望懇談会に参加(北部九州会)

◎第22回 政治連盟囲む会インタビュー

不屈の厚労トップ

地元滋賀県長浜の商店街衰退を目の当たりにした少年は、京都大学で法律・行政学を専攻し自治省へ。14年のキャリアを積んで満を持して政界入り、とはならず4度の落選を経験。今回は不屈の精神をお持ちの高市内閣厚生労働大臣、上野賢一郎議員です。

ゲスト：衆議院議員 **上野賢一郎**

(インタビューは2025年12月に実施)

商店街の衰退

内海 上野議員と初めてお会いしたのは2017年、京滋会の勉強会です。当時、

上野議員は経済産業部会長で、「中小企業をどうするか」というお話をされていました。その時先生に言われてから、私は事業引継ぎ支援センターのコーディネーターを少し前まで務めていました。

内海 自治省では佐賀県庁や岩手県庁のご経験もありますが、そこから政治家になられたきっかけは何ですか？

上野 政治家は子供の頃からなろうと思っていました。私は両親が商店街で荒物屋(日用雑貨)を営んでいましたので、中学の頃から商店街の衰退を直接目の当たりにし、子供ながらに衝撃を受けました。両親が店にいる間は、一人でテレビを見ることが多くロッキード事件などニュースばかり見ていたのです。そうしたことが刺激になって政治家を考えるようになりました。ただ私は世襲ではないので、政治家へのステップとして自治省に入りました。

内海 政治家への転向はどのようなタイミングでしたか？

上野 岩手県庁にいた時に、当時知事だ

った増田寛也さんのリーダーシップを間近に見て、社会を良くしていくにはリーダーシップが必要だと感じて、2003年に思い切って公務員を辞めました。自治省に入って14年目です。だけど選挙に出ても厳しかった。計4回落選しています。

内海 4回ですか。すごいですね。

上野 38歳で初めて衆議院選にチャレンジしてダメで、その後参議院選、衆議院選と落選して、次の郵政民営化の時に当選しました。その後、民主党との政権交代でまたボロ負けです(笑)。

秋山 チャレンジし続けるのは精神力が強いのですね。

上野 粘り強さはあるかもしれないですね。鈍感力かな(笑)。

秋山 どうしても議員になって成し遂げた

いことがあったのですか？

上野 一回始めた以上、結果を出すまで続けようと思っていました。デフレ下で経済状況を良くして特に地方を元気にしたい、中小企業が頑張れる環境を作りたいという思いが強かったです。あと続けられたのは支えてくださる方がいらっしゃったからです。家族には迷惑をかけましたけど。

税政、予算、厚労関係と幅広く活躍

木田 上野大臣は、自民党税制調査会や経済産業省、財務副大臣など我々に関連するところでご活躍いただいていますね。

上野 自治省では地方税の担当を長くしていましたので、税制は昔から関心がありました。当時、税理士試験の問題も作っていましたよ。

木田 それは知りませんでした(笑)

上野 税理士試験の税法は、財務省と総務省の若手職員が問題を作るのです。当時、固定資産税課だったので、固定資産税の問題を作っていました。

木田 それはお詳しいはずですが。これまでで印象的なことはありましたか？

上野 毎年の税制改正は国民の皆さんに直結しますので、非常に思い入れはありますね。消費税を上げた時、軽減税率を導入した時、いろいろな議論がある中で、政治的な決断に税調や内閣で関わったのは大きな経験になりました。あとは財務副大臣の時は財務省の立場で予算に関わり、全体としてどういう予算編成にするかといったマクロの視点を得ることができました。

上野 いろいろ経験をさせていただいていますが、厚労大臣は幅広いですね。医療、介護、年金、労働分野、社会援護もあります。国民の皆さんに関係することが多いのです。

厚生労働関係はここ数年、厚生労働委員会の筆頭理事で委員会運営をさせてもらっていて、特に先般の通常国会は年金改革法について、野党の皆さんと議論して成案をまとめるところで非常に苦勞しました。少数与党の国会運営の厳しさを経験しましたね。高齢化が進んで生産年齢人口も減りますから、当然、全体として見れば負担は増えていく方向にならざるを得ない。そうすると、あるところだけ取り出して、これが酷い、可哀想と言われても、全体の中ではそういったこともあるので難しいなと感じています。

茂木 厚労関係は国民が生まれてから亡くなるまで、あらゆることを扱いますね。

上野 生まれる前の妊娠からですね。亡くなってからも墓地、埋葬が関わってきます。今は総理から働き方改革の宿題をいただいています、「働いて、働いて、働いて」ですね(笑)。

だけどこれも難しいですね。過労死など働き過ぎの問題もある一方で、若い人の働きたい意欲もあるのかなと思います。

茂木 本当に人によって立ち位置が違うので、若い時に沢山働いて早く力を付けたいと思う人もいらっしゃいますし、そういう人たちの思いも大事にしたいなと思うところがあります。

病院の課題を考える

上野 皆さんの顧問先で何か相談を受けることがありますか？

木田 社会福祉法人、医療法人など監



写真前列：上野賢一郎衆議院議員、写真後列左から：菅田裕之(日本公認会計士協会常務理事)、秋山修一郎(日本公認会計士政治連盟幹事長)、南 成人(日本公認会計士協会会長)、茂木哲也(日本公認会計士政治連盟会長)、内海 靖(囲む会会長)、奥田雅彦(囲む会監事)、木田 稔(日本公認会計士政治連盟京滋地方会会長)



Profile

1965年滋賀県生まれ。京都大学法学部卒業後、自治省(現総務省)入省。2005年第44回衆院選で初当選、現在7期目。財務副大臣、衆院内閣委員長、厚労委筆頭理事、予算委理事など歴任。高市内閣にて厚生労働大臣就任。趣味は料理(煮物、茶碗蒸しが得意)、ミュージカル鑑賞(レ・ミゼラブルが好き)。

査でお手伝いさせていただいていますが、収支はすごく厳しいですね。普通の急性

期の対応をされる病院は厳しいです。そういった病院はいわゆる老健施設(介護老人保健施設)も経営されていて、それで赤字をなんとかという感じですね。

菅田 医療法人は我々が監査するような規模のところは今一番厳しいです。あと、大学病院、公立や国立の病院がありますが、私立大学病院も大変だと感じています。設備投資資金の調達、ドクターの働き方改革への対応、医療材料の高騰と課題が多いです。

上野 消費税が非課税になっているのも効いていますよね。補正予算で補助金を出して上乗せしましたが、診療報酬である程度出さないと、また赤字になってしまいますからね。お医者さんも構造的な問題があって、今「直美(ちよくび)」と言って、すぐに美容医療に進む医者が増えて外科に行く方が減っている。以前は産婦人科や小児科は訴訟リスクが高いと言われてましたが、今は消化器外科はいつ手術が入るか分からないし、勤務時間が長いと敬遠され

てしまう。

特に地方は厳しくて、新しく開業した人の6割から7割は東京なのです。地方でも県庁所在地周辺の開業は増えているけれど、離れているところは開業がない。その上、開業医も高齢化して、後継もいなくて診療所がなくなっています。病院は医療圏ごとに整備されていますが、「かかりつけ医」がない地域が出てきています。オンラインでカバーしたりしていますが、難しいですね。

予防医療を進めよう

奥田 高市総理からたくさん指示書をいただいているとのことですが、特に上野議員が進めたいと思われるのはどれですか？

上野 攻めの予防医療ですね。健康予防の議員連盟を作って会長をしています。「人生100年、健康寿命100年」、100年健康に生きられる社会を目指すために、例えばがんの検診率は欧米に比べて低い

で、検診率を上げるといった課題にもチャレンジしています。

奥田 上野議員ご自身は何か予防医療されていますか？

上野 食に気を付けていますよ。例えば野菜は1日350グラム食べる。あと週に何回か走っています。1キロぐらいですけど、それでも血液や肝臓の数値が改善しています。

南 我々も身体が資本ですから、健康であることが一番大切ですね。最後に公認会計士(業界)に期待することをお話いただけますか。

上野 公認会計士の皆さんの役割はますます大きくなってくると思います。会計の分野やコンプライアンスも含めて日本企業の魅力を高めていただきたいですから、健康第一で日本企業を支えてください。

南 ありがとうございます。我々も「次世代が輝ける社会」をビジョンとしておりますので、ともに頑張ってまいりたいと思います。

活動報告

肩書は開催日時点のものです。

岸田文雄衆議院議員、古賀篤衆議院議員、塩崎彰久衆議院議員と意見交換

2025年10月14日



古賀篤 衆議院議員

岸田文雄 衆議院議員

塩崎彰久 衆議院議員

武見敬三前参議院議員の慰労会を開催

2025年10月15日



武見敬三 前参議院議員

「小田原きよしを囲む公認会計士の会」第2回通常総会を開催

2025年10月20日



小田原 潔 前衆議院議員

去る10月20日に東京会の三多摩会事務所において「小田原きよしを囲む公認会計士の会」第2回通常総会が開催された。

小田原潔先生は当選4回の前衆議院議員で元外務副大臣。開催に先立ち、三多摩会主催による研修会「今後の日本の展望と公認会計士が果たす役割」について小田原先生より講義いただいた後、第2回となる「囲む会」を開催し、囲む会から小澤伸光会長、政連東京会から八木茂樹会長、日下部恵美幹事長、高德信男

三多摩支部長ら計15名の会員が参加した。総会では事業報告、会計報告の議事が滞りなく承認され、終了後、引き続き同事務所内において懇親会を開催した。

懇親会では小田原先生と出席会員が活発な意見交換を交わしながら懇親を深め、惜しくも前回の衆議院選では残念な結果となり捲土重来を期す同氏への揺るぎない支援を確認し、第2回の「囲む会」は、総会・懇親会ともに盛況のうちに終了した。

「鷲尾英一郎 育てる会」に参加

2025年10月20日



鷲尾英一郎 前衆議院議員

公明党政政策要望懇談会に参加

北部九州会

2025年11月8日



濱地雅一 衆議院議員